

令和二年度 政務活動 実施成果報告書

茨城県議会公明党議員会

【県外調査・広島県県外調査活動(広島叡智学園中学校・高等学校他)】

1. 活動期間

令和二年7月30日～7月31日 広島叡智学園中学校・高等学校他

2. 調査目的

特色ある教育の推進、公立学校内の適応指導教室、学校図書館の活用などの先進的な教育行政の在り方についての事例調査を目的とするもの。

3. 主な訪問先

- 1) 広島県立広島叡智学園中学校・高等学校
- 2) 広島県教育委員会事務局
- 3) 海田町立海田西中学校
- 4) 広島県立廿日市高等学校

4. 主な調査事項

【広島県立広島叡智学園中学校・高等学校】

面会者; 広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 福嶋一彦 校長、大島美紀 教頭

○広島県立広島叡智学園中学校・高等学校は、全寮制の県立中高一貫校として昨年開校しており、全国から注目されている。

○広島県において、「学びの変革」をリードするグローバルリーダー育成校として設置された。

○中でも、ネイティブの教師による教科学習、国際バカロレアの導入、未来創造科での課題解決型学習など、特色ある教育が行われている。

- 主体的な学びを大事にし、「持続可能な社会を構築し、国際社会の平和と発展に貢献できる人材の育成」を目指した教育プログラムは、本県がめざす特色ある教育にとっても学ぶべき教育プログラムであった。

【広島県教育委員会事務局】

面会者;広島県教育委員会 富永六郎 学びの変革推進部長、小早川善伸 指導主事

- 広島版「学びの変革」アクションプランについての聞き取り調査を実施した。
- 国よりも早い平成 26 年から、グローバル化に対応した新しい教育モデルの構築を目標にプランを策定しており、10 年先を見据えた施策を展開している。
- これからの教育の方向性については、コンピテンシーの育成を目指した主体的な学びとし、知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるかを重視している。
- すべての小中学校で異文化間協働活動が行われ、全県立学校にコミュニティスクールを導入するなど、全体の底上げが行われていることが理解できた。

【海田町立海田西中学校】

面会者;海田町 西田祐三 町長、海田町教育委員会 佐々木智彦 教育長、海田西中学校 峠越将樹 校長

- 広島県においても不登校は上昇傾向で喫緊の課題とされており、校内適応教室(SSR)の状況を視察した。
- 学校とのつながりを途切れさせないための居場所を校内に設置し、SSR として活用している。中でも、不登校児童・生徒の多い小学校 5 校、中学校 6 校を「不登校等児童生徒支援指定校」として指定し、専任教員を配置し、SST を推進している。
- 県教委の指導主事が、学習支援、心のケア、特別支援教育にかかわる指導助言を行い、

組織的な対応を行うことにより成長の場となっている。

- 今後は、SSR の取り組みの成果を全県に波及させていくとのこと。
- 特に、市町村に対する県の支援の在り方は非常に参考になった。茨城県も調査の上、参考とすべきである。

【廿日市高等学校】

面会者；広島県立廿日市高等学校 藤本寅肇校長、松島康浩教頭

- 「学びの変革」アクションプランに基づく「主体的な学び」の充実に向けた取り組みの一つとして、学校図書館を積極的に利活用した教育を推進するために、人的・物的整備を行い、その成果を検証、普及することとしている。期間は、平成 31 年から令和 3 年までであり、県立学校をモデル校として指定。廿日市高校では、学校図書館リニューアルの手引きに従い、生徒が主体となって、事項の図書館の課題を見直し、改善を図っている。
- 地域の中の学びを大事にし、コミュニティスクールとして運営する中でリニューアルには、生徒、教職員、保護者、市民がボランティアとして参加。生徒が立ち寄りやすい環境となり利用者の増加につながったとのこと。
- 図書館での授業の実施、読書の日の活用などを通し、利用促進を図っている。
- 主体的・対話的で深い学びにおいて学校図書館のかかわりは重要であり、茨城県での取り組みを強化すべきと考える。

5. 成果等

- 2020 年 9 月 10 日 令和二年第三回定例会代表質問において、「教育に関する諸課題について」の項目の中で、広島県立叡智学園の先進的な教育を踏まえ、中高一貫校における特色ある教育の推進についての質問を行った。

- 更に、広島県の「学びの改革」アクションプランを参考に、主体的、対話的で深い学びの実現のためには地域との連携強化が不可欠であり、文部科学省が推奨しているコミュニティスクールの取り組みを強化する必要があることを提言した。
- また、グローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力の育成に向けて小学校段階から広島県で行っている「異文化間協働活動」について、特に。全県立学校で、海外の姉妹校締結について紹介し、これらの取り組みを参考に教育のレベルアップを行うよう提言した。



叡智学園 図書室/未来創造科課題解決型学習教室



叡智学園 宿泊棟/入口(生徒さんと)



海田中学校 サポートルーム/西田町長



廿日市高等学校 図書室

6. 活動参加議員:田村佳子県議(報告者)

【2020年9月10日 令和二年第三回定例会代表質問】

公明党 田村けい子の質問

教育に関する諸課題について伺います。

まずは、特色ある教育の推進についてです。

本年、我が県において、5校の中高一貫教育校が誕生しました。地域の中の学びを通して、探究活動、国際教育、科学教育等に重点を置いた教育を、6年間で、計画的、継続的に展開する特色ある取り組みを行っているとお伺っております。

先行して開設された並木中等教育学校、日立第一高等学校・附属中学校、古河中等教育学校では、日本学生科学賞の受賞、科学の甲子園ジュニア全国大会入賞等、大きな成果を上げています。

今年度からは、順次、新しい学習指導要領がスタートし、主体的・対話的で深い学びの視点から授業が行われ、総合的な探究の時間も始まっています。

時代の大きな変化の中で、期待される人材のあり方も教育の方向性も大きく変わりつつあります。

先月、私は、広島県を訪れ、広島版学びの変革アクションプランの説明とともに、本年度の主要施策の概要を調査させていただき、昨年開校した全寮制の中高一貫教育校、広島県立広島叡智学園の視察を行わせていただきました。

広島県では、平成26年12月に広島版学びの変革アクションプランを策定し、このプランに基づき、広島県のリーディングスクールとして、瀬戸内海に浮かぶ離島大崎上島に叡智学園を開校させました。全国から集まってきた生徒たちは、全員、寮で生活しながら、特色ある教育を受けています。グローバル人材の育成を目指し、国際バカロレア・プログラムの導入もほぼ決定し、実社会の課題解決に挑戦する国際協働型プロジェクト学習や、外国の中学生とのオンライン交流による英語力の育成など、先進的な取り組みがなされています。40人の教員のうち、ネイティブが7人を占め、見学させていただいた数学の授業では、ネイティブの先生による英語での授業が行われていました。

また、叡智学園のVALUESとして、グローバルな視野と地域に根ざした心の双方を大切にし、主体的に学び続けるラーニングコミュニティを形成すると示されているとおり、地域の中の学習資源を大切にし、島内で生活されている方々との出会いの場の設定、島内の事業所でのインターンシップなど、常日ごろから地域の方々と触れ合う機会をつくることにより、地域の課題を知り、解決に向けて取り組みを続けている先人たちの姿を見て学ぶという学習活動を行っています。

校長先生の主体的、対話的な深い学びにおいて、本当に大切なことは、主体的に取り組む姿勢をどう育成するかだとのお話に、今後求められる教育のあり方をかいま見た思いがいたしました。

我が県における中高一貫教育校の特色ある教育においても、叡智学園の先進的な取り組みのような思い切った改革があってもいいのではないかと痛感しています。

また、広島県の県立学校は、特別支援学校も含めて、全てにコミュニティ・スクールが導入されており、地域住民との連携・協働を推進していること、また、全ての小・中・高等学校において、異文化間協働活動が活発に行われ、全高等学校が海外の学校と姉妹校締結を行っており、毎年、1,000人以上の生徒が海外に留学するために必要な教育環境を整備するなど、トップを育てるだけでなく、教育全般の底上げが目指されていることに大きな感銘を受けました。

我が県においても、特色ある教育の推進において、地域の中の学びを重視するとしていますが、文部科学省が推進しているコミュニティ・スクールの導入は本県では進んでいません。新学習指導要領のポイントとなる社会に開かれた教育課程の実現に向けて、コミュニティ・スクールの推進が求められますが、昨年の導入校は、全国平均が21.3%であるのに対し、我が県は8.3%となっており、導入の推進が求められます。

これらを踏まえ、中高一貫教育の方向性も踏まえ、特色ある教育をどのように推進していくのか、教育長の御所見を伺います。

小泉教育長の答弁

教育に関する諸課題についてお答えいたします。

まず、特色ある教育の推進についてであります。

平成31年2月に策定した県立高校改革プランでは、令和2年度から3年間で10校の中高一貫教育校を開校し、地域の中の学びを重視した特色ある教育活動を展開することとしております。

例えば、今年度開校した5校の中で、鹿島高校附属中学校では、生徒みずからが発見した課題を分析し、探究する力を育成するため、鹿島アントラーズと連携し、鹿島地域の歴史と未来に関するワークショップを実施しております。

また、5校で取り組むイングリッシュ・スタディでは、プレゼンテーション力を育成するとともに、高い英語力を身につけるため、各校の生徒とALTがWeb会議などを通して、地域紹介や学校紹介を題材に意見の交換などを行っているところであります。

また、来年4月に開校する3校では、こうした5校の取り組みに加え、グローバルな視点を養い、世界のリーダーとして活躍できる人財を育成するため、大学、企業などとの連携を一層深め、探究学習を充実することとしております。

例えば、水戸一高・附属中学校では、大学などの各界の第一人者が講演する「心に火をつけるフォーラム」、土浦一高・附属中学校では、卒業生がサポートする「最先端研究所・企業研修」、勝田中等教育

学校では、地元自治体や企業、大学などによる「未来探究コンソーシアム」を組織し、地域の課題やSDGsに関連したテーマなどの探究活動を推進してまいります。

また、特色ある教育を推進するためには、中高一貫教育校以外の高校につきましても、外部機関との連携が非常に重要であります。

先月、県立高校改革の実施プランI期第2部として、サイエンスに特化した高校やITに特化した高校の設置などを公表したところですが、これらの学校においては、高い専門性が必要となりますことから、大学や研究機関、企業などと、より広くて深い連携を図ることで、今後、Society5.0の到来に向け必要となる専門的で、より実践的な教育を推進してまいります。

引き続き、広島県などの事例も参考にしながら、本県の中高一貫教育校などの特色ある取り組みをさらに促進してまいります。

また、学校と地域の連携につきましては、現在、全ての県立高校において、地元の企業経営者や大学教授などを学校評議員として委嘱し、地域の声を学校運営に反映しているところではありますが、議員御提案の学校と地域が協働して子どもたちの成長を支えるコミュニティ・スクールの取り組みは、地域とともにある学校づくりを進める上で、両者の連携をさらに強固にするものでありますので、早期の導入に向け、調査研究校を指定し、実践してまいります。

県といたしましては、こうした取り組みにより、地域との連携を強化し、本県全体の教育力の向上と特色ある教育の推進に努めてまいります。